

教員養成系大学としてのNIE

富山 祥瑞
(愛知教育大学 教授)

■はじめに——経緯

国立大学が一斉に法人化された翌年の二〇〇五年、愛知教育大学では地域の教育力を教員養成に活かす目的で、自治体・NPO・企業等とで「市民参画型教員養成コーディネーター会議」が立ち上げられました。その一環として二〇〇六年に誕生したのが中日新聞社との連携授業です。

開講枠は私の担当授業に組み込む形で展開してきました(当初は3年次後期の「総合演習」、現在は「デザイン論」で運用)。スタート時は授業目標として「社会人(教育者)の教養として『情報を読み解く力』を、演習を通して体得してもらう」と掲げましたが、一方の受講学生からは「なぜ、今、オールドメディアの新聞なのか」との声も聞かれたものです。

新聞活用が教育界で真剣に注目されるのは、新学習指導要領が公示された二〇〇八年からです。「教科を超えた新聞活用」の導入です。それまで一般的に、教員養成系大学では新聞活用を学ぶ授業が皆無でした。愛教大の取り組みは

結果的にNIEを推進できる教員養成の先駆けプログラムと成り、教育学部の学生には、明快に説明できる状況が導かれました。二〇一三年の開講中を入れると、早八年が経つ授業です。

■「絵に描いた餅」とならないために

学生が教員になった際、新聞を理解していなければ、教科を超えた新聞活用など絵に描いた餅です。新聞を読まない、いや読んだことがない学生は、教育大学といえど相当な割合です。あまりに恥ずかしいので、ここでは調査結果の公表は控えます。授業では新聞の読み方から始めています。

昨今の授業内容をザックリ紹介すると。——

- 何を書くか、どう書くか
- 取材の仕方(マナー・文章作法・検証)
- メッセージのある写真(実技)
- 新聞の割付(レイアウト、見出し)
- 生きた教材としての実践例
- 編集会議
- グループ新聞の発行
- 全十五回(九〇分/回)のトレーニング・メニューです。

各トレーニングは中日新聞社からゲスト講師を迎え、実践紹介はNIEを牽引されている教育現場の先生で展開、ハードウェア面はPCソフト会社の支援を得ています。新聞づくりでもっとも重要なメディア・リテラシーは、全てのコマの共通事項としています。

当授業の最終成果品としては、グループごとにA3判のカラー刷り新聞を発行しています。「写真1」。半年前まで新聞に親しんだ経験のない学生たちが発行に漕ぎ着けるまでには、中日新聞社から多大なご尽力をいただいています。

■スクラップシートの導入

この数年、力を入れているのが「新聞スクラップ」です。「写真12」。隔週ごとに宿題として課しています。A3判の左半分が受講学生が選んだ中日新聞記事のスクラップ、右側が記事分析のプレゼンテーションシートです。只の要約と違う点は「中学生を读者対象の『中学生新聞』として、読者層の興味・関心を引き寄せる記事化に挑戦してください。その為には、記事内容への更